

令和 2 年 6 月 12 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04829

研究課題名(和文) 高等教育機関における意思疎通支援人材育成システムの開発

研究課題名(英文) Development of the higher education system of the mutual understanding support

研究代表者

池谷 航介 (Iketani, Kosuke)

岡山大学・全学教育・学生支援機構・講師

研究者番号：60740321

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：この研究では我が国の高等教育機関における意思疎通支援の現状を把握するため、意思疎通支援者を対象としたインタビュー調査と、全国の高等教育機関における障害学生支援担当者を対象とした情報保障の実施状況についての質問紙調査を行った。障害者差別解消法の施行に伴って全国の高等教育機関では障害学生への合理的配慮の提供が義務化され、支援の拡充が進んできているが、支援方法や人材育成について一定の専門性を必要とする意思疎通支援に関し、まだ十分とは言えない体制整備状況であることが確認できた。この結果は学術論文9件(内2件は未採択)、学会発表7件、図書2件で公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

意思疎通支援は、とりわけ予算・人員・専門性が高い水準で求められる支援方法であるため、この体制整備等に関する基礎的な研究を行っていくことにより、「支援の質」や高等教育機関ごとの温度差といった、様々な障害者・障害学生への支援全般に関する現状を把握することができると考えている。「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」施行から5年目(本研究終了時)に入り、着実に障害者を対象とした支援の実施は拡充されてきているが、個々のニーズに十分応じられているのかという「支援の質」について、これまでの検証を踏まえてつづき省みることは、今後の共生社会の実現に向け、非常に意義の大きいものであると考えている。

研究成果の概要(英文)：This study grasps the mutual understanding support in the Japanese higher education system. Our Team performed inventory survey about the interview investigation for supporters and the support for higher education systems in Japan. It became the duty to offer reasonable accommodation to the student with disability by the enforcement of the law. However, specialty is necessary about a support method and personnel training. System maintenance is not enough. We announced this result with 9 articles (2 cases are non-publication), 7 presentations, 2 books.

研究分野：特別支援教育

キーワード：意思疎通支援 障害学生支援 高等教育機関 聴覚障害

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初である2016年から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されたことによって、各高等教育機関において障害学生支援体制が次第に整備されていった。このような体制整備の進捗を背景に、本研究の主題である意思疎通支援についてもニーズへの対応が進められた。この間、いくつかの障害学生支援全般についての悉皆調査が毎年実施されているが、ほとんどの要支援学生が在籍する高等教育機関で何らかの授業支援が実施されていることが示されている。しかしながら、学生のニーズに十分応じられているかといった質的なところについては把握が進んでいない。意思疎通支援を高等教育機関で十分に実施していくためには、体制整備に係る予算・人員・専門性が高い水準で求められるが、このいずれかが不足した状態であっても現状可能な方法という範疇で支援の提供がなされる場合があり、「実施件数」の割合だけでは質的な把握ができないことが問題となっていた。

2. 研究の目的

我が国の高等教育機関において、手話通訳や要約筆記等、意思疎通支援を必要とする障害学生数は年々増加し、多様化するニーズへの対応、実際の支援を担う人材の不足、そして博士課程等において高度に専門化する情報への対応は喫緊の課題となっている。

そこで本研究では、我が国における意思疎通支援の実施状況と諸課題について詳細に調査分析した上で、全ての高等教育機関でどのように支援を進めるべきか考察し、運用可能な人材育成システムの開発等、体制整備に関して知見を得ることを目的とする。

また、2016年の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」施行以降、高等教育機関では合理的配慮の提供が義務化されたことにより、障害学生支援室等の設置や教職員の配置が進みつつある。しかしながら、各機関において提供される支援の質には格差が生じていると推察される。障害学生支援を進めるにあたってとりわけ意思疎通支援は予算・人員・専門性と、一定の体制整備を伴うことから、この調査研究によってこれまでの研究ではあまり確認されてこなかった支援の質的な現状と課題を確認し、我が国における障害学生支援の進捗状況を把握することが可能であると考えられる。

3. 研究の方法

< 第1次研究期 >

意思疎通支援に関する様々な課題を把握するため、以下の3つの調査を行った。

() 高等教育機関における意思疎通支援者の養成に関する研究として、支援者を対象に支援活動に参加した際の不安感等の変化について質問紙を用いて調査した。

() 高等教育機関における意思疎通支援者の養成に関する研究として、支援者を対象に地域の意思疎通支援活動と高等教育機関における意思疎通支援活動の相違点について半構造化面接法を用いて調査した。

() 各高等教育機関担当者を対象に、適応に課題を有する留学生の意思疎通支援等における課題について半構造化面接法を用いて調査した。

< 第2次研究期 >

一般的な大学生等においてもコミュニケーション等に不安や問題を発生しやすい入学直後時期を「大1コンフュージョン」期として位置づけ、調査や論考を行った。

() 「高校と大学のギャップ」について、質問紙を用いて調査した。

() 具体的な支援の方法について論考を行った。

() 「入学以降における大学内外でのコミュニケーション」について、質問紙を用いて調査した。

() 「ライフスキル、意欲低下、心理的ストレス反応の関連」に関し、質問紙を用いて調査した。

< 第3次研究期 >

以上の研究期において得られた知見を踏まえ、代表者と分担者において意思疎通支援に係る人材育成や体制整備といった、支援の質に関連する課題を論考し、その成果として全国の高等教育機関に対する調査用の質問紙を作成した。この質問紙を用いた全国調査を、高等教育機関1136校(国立大学86校、公立大学81校、私立大学605校、高等専門学校57校、短期大学部を含む短期大学287校、大学院大学等その他20校)に送付し、障害学生支援担当者から回答を得た。

4. 研究成果

< 第1次研究期 >

第1次研究では、まず支援者を対象に支援活動に参加した際の不安感等の変化に関し、支援に携わる学生の育成にあたって、どのような研修を設定すれば効果的であるかを検討するため、初めてPCノートテイクによる支援活動に携わることとなった学生の「状態不安」の推移を各学生のPC入力習熟度別に検討した結果、全般的には支援活動回数を重ねるごとに不安が軽減されることが分かったが、PC入力に自信のない学生は回数を重ねても不安感が軽減されにくいことが分かった。

次に、高等教育機関と地域における文字通訳の相違点を把握するため、双方を経験した支援者を対象に調査を行った結果、文字の表示方法や支援体制について相違点が認められたが、地域のノウハウを高等教育機関に還流することで、さらに支援の充実が図られる可能性が確認できた。

そして、さらに意思疎通やコミュニケーションの課題に関する知見を得るために実施した、課題を有する留学生の実態や支援の現状についての調査の結果、発達障害の診断を有している留学生が全体の約 10%となってきたという言及や、文化差異によって支援に関する考え方等が様々であることに留意すべきであるという言及等が聴取でき、今後は支援を必要とする留学生数がさらに増加すると推測され、支援体制の構築が急務であるといえる。また、個々の出身国の文化背景を踏まえた支援を進めることも重要であることが確認できた。

< 第 2 次研究期 >

第 2 次研究として、第 1 次研究で行った課題に応じた把握を踏まえ、意思疎通は学生期の普遍的な課題としてどのように表れているかを把握するため、「大 1 コンフュージョン」期と位置付けて一連の研究を実施した。

まず、高校までの学校段階と大学との様々なギャップに対し、大学 1 回生は、相対的に授業履修や学習面に対して戸惑いや困難が高く、学習面以外の大学生活全般に対しては相対的に低く、発達障害困り感との関連結果から、特に ASD 困り感の強い学生は、授業履修や学習面よりも、それ以外の大学生活全般に対して、より戸惑いや困難を感じやすい結果となった。

次に、「大 1 コンフュージョン」の要因を踏まえた支援の在り方について、学校心理学における 3 段階の心理教育的援助サービスの枠組みによる分類から論考し(1) 全ての新入学生、(2) 苦戦し始めた一部の学生、(3) 苦戦が著しい状態にある特定の学生、以上のそれぞれを対象とした具体的な支援例を挙げた。

さらに、大学生活が 1 年半以上経過した 2 年目の学生を対象に、「大 1 コンフュージョン」項目群と、既存の相談先、意欲低下領域尺度、単位取得状況を聞き、その相関について分析と考察を行った結果、単位取得に対処ができていない学生は、戸惑いや困難が生じた場合、友人や家族等を中心に相談し、援助要請をすることによって深刻な状況を回避していた。しかし、「大 1 コンフュージョン」が継続している学生は、友人や家族を中心とした援助を得ながらどうにか必要な単位取得は進められている場合であっても、大学や学業に対する意欲が低下する状況が見られた。

以上に加えて、新入生を対象に、日常生活スキル尺度(大学生版)、意欲低下領域尺度、心理的ストレス反応尺度との関連について検討した結果、「大 1 コンフュージョン(大学生活全般)」は、「授業意欲低下」、「大学意欲低下」および 3 種類のストレス反応とは中程度の正の相関がみられた。また「授業意欲低下」、「抑うつ・不安」、「無気力」とは弱い正の相関がみられた。

< 第 3 次研究期 >

第 3 次研究として、以上の研究を踏まえ、支援の実施にあたって予算・人員・専門性が高い水準で求められる意思疎通支援を切り口とすることで、「支援の質」の把握が行えるのではないかという仮説を立て、全国調査のための質問紙を作成した。この質問紙を用いて、全国の高等教育機関を対象に、質問紙による調査を実施した。なお、この第 3 次研究の結果と考察については現在学術誌に投稿中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 原田新・池谷航介	4. 巻 9
2. 論文標題 「大1コンフュージョン」の実際（第3報）：ライフスキル，意欲低下，心理的ストレス反応との関連	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岡山大学教師教育開発センター紀要	6. 最初と最後の頁 243-250
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/CTED/56555	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池谷航介・原田新	4. 巻 9
2. 論文標題 「大1コンフュージョン」の実際（第4報）：大学2年目の学生を対象とした相談状況とその検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岡山大学教師教育開発センター紀要	6. 最初と最後の頁 251-257
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/CTED/56556	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田新・池谷航介・松井めぐみ・望月直人	4. 巻 第8号
2. 論文標題 「大1コンフュージョン」の実際（第1報）－高校と大学のギャップに戸惑う新入生の実態調査－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 岡山大学教師教育開発センター紀要	6. 最初と最後の頁 97 - 107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 池谷航介・原田新	4. 巻 第8号
2. 論文標題 「大1コンフュージョン」の実際（第1報）－大学生活を支える段階的な援助サービス－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 岡山大学教師教育開発センター紀要	6. 最初と最後の頁 173 - 180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 池谷航介・井坂行男	4. 巻 65(2)
2. 論文標題 高等教育機関における意思疎通支援者の養成に関する研究(第II報) 地域の意思疎通支援活動を経験した支援学生に対する調査の分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大阪教育大学紀要第IV部門教育科学	6. 最初と最後の頁 11-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池谷航介・開田俊太・井坂行男	4. 巻 65(1)
2. 論文標題 高等教育機関における意思疎通支援者の養成に関する研究(第I報) 支援活動への参加初期における状態不安の推移	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 大阪教育大学紀要第IV部門教育科学	6. 最初と最後の頁 15-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 楠敬太・池谷航介・望月直人	4. 巻 65(1)
2. 論文標題 高等教育機関に在籍する課題を有する留学生の実態把握に関する研究	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 大阪教育大学紀要第IV部門教育科学	6. 最初と最後の頁 7-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 池谷航介・白澤麻弓・平賀健太郎・山森一希・金澤貴之
2. 発表標題 我が国における障害学生支援の現状と課題(4)～どこまで支援すべきか～障害学生の教育実習支援を通して
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池谷航介・高橋桐子・舩越高樹・白澤麻弓
2. 発表標題 我が国における障害学生支援の現状と課題（3）
3. 学会等名 日本特殊教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池谷航介・白澤麻弓・佐藤剛介・森脇愛子・近藤武夫
2. 発表標題 我が国における障害学生支援の現状と課題（2）
3. 学会等名 日本特殊教育学会第55回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池谷航介・井坂行男・望月直人・楠敬太
2. 発表標題 高等教育機関における意思疎通支援推進に関する研究
3. 学会等名 日本特殊教育学会第55回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池谷航介
2. 発表標題 大学において支援を進めるということ
3. 学会等名 第13回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池谷航介・白澤麻弓・望月直人・原田新・能登宏・近藤武夫
2. 発表標題 我が国における障害学生支援の現状と課題(1)
3. 学会等名 日本特殊教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 池谷航介・開田俊太・井坂行男
2. 発表標題 高等教育機関における意思疎通支援者の養成に関する課題 支援活動への参加初期における状態不安の推移
3. 学会等名 日本特殊教育学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 富永光昭・須田正信・山本 晃・西山 健・平賀健太郎・長澤洋信・藤井 梓・平沼源志 編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 あいり出版	5. 総ページ数 342
3. 書名 特別支援教育の授業の理論と実践 通常学校編	

1. 著者名 池谷航介	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岡山大学障がい学生支援室	5. 総ページ数 12
3. 書名 聴覚障がい学生の理解と支援	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井坂 行男 (Isaka Yukio) (40314439)	大阪教育大学・教育学部・教授 (14403)	
研究分担者	望月 直人 (Motizuki Naoto) (20572283)	大阪大学・キャンパスライフ健康支援センター・准教授 (14401)	
研究分担者	楠 敬太 (Kusunoki Keita) (70770296)	大阪大学・キャンパスライフ健康支援センター・特任研究員 (常勤) (14401)	
研究協力者	白澤 麻弓 (Shirasawa Mayumi) (00389719)	筑波技術大学・障害者高等教育研究支援センター・准教授 (12103)	